

アズパートナーズ

相模原でショート・デイ複合

施設と在宅 両輪で展開加速



植村健志
代表取締役

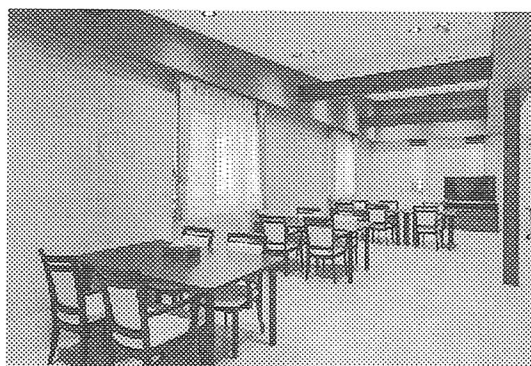
植村健志代表取締役は「デイの定員60名というのは、当社では最大規模。これまでは介護付きホーム（特定施設）メインで展開して

きたが、現在は在宅サービスにも注力しており、この施設で在宅の事業所は12カ所になった。定員22名のショートは、当社が運営する介護付きホームの待機中にも利用してもらえれば」とし、利用者の在宅生活を支えながら、満床の施設の待機者の受け皿としても対応していく姿勢を示し

アズパートナーズ（東京都千代田区）は10月1日、定員60名のデイサービスと22名のショートステイからなる複合施設「アズハイムテラス相模原」を相模原市に開設した。開設に先立ち、9月28日に行われた開所式では「大人のデイ」「大人の休息」をコンセプトとする同施設の多彩なレクリエーションや、壁紙などにもこだわった空間演出が紹介された。



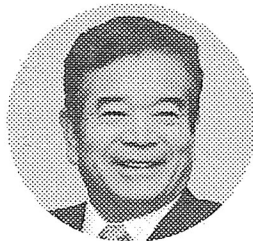
▲施設の外観



▲壁紙や照明にこだわり。設計・施工も業者と協力して手掛けた

「今後、在宅事業所を20に増やしていく考え。来年には、介護付きホームも1000室稼働を目指す。」

同施設のショートは、3カ月～半年で稼働率100%～110%が目標。デイはすでに15名超の利用者があり、1年程度でのフル稼働を目指す。



高橋誠一社長

MCS

認知症ケア報告

GH開設

メデイカル・ケア・サービス(さいたま市)は9月21日、都内で「第8回 認知症ケア実践・研究報告会」を開催した。「あきらめないケア」と題した「愛の家グループホーム

△日野万願では、1日で、食事・なくなつてに対し、抗中止というアプローチし介。そのほ域の小学生注力した事願望のあるつ症状の改んだ事例なた。

をを目指す。施設と在宅の両輪で、地域のニーズを汲んでいきたい」（植村代表取締役）

また、報行われた「式」では、度賞や優秀

日中福祉交流コーディネーター

上海福祉の今

日中福祉プランニング代表



プロフィール
中国上海市出身。1989年語学学習を経て大阪市卒業。95年より日本企業に勤務。上海市民政府者連合会などの長年の海市と日本の介護福祉を支援してきた。2016年に、福祉分野を中心にコーディネーターとして活動中。取材、ビジネス支援、視察案件を実現してきており、に関しては第一人者であ

ケア、助急」の七つの項目をあげています。まず「助」は、日本語で「支援」という意味です。「助浴」とは建物が古くエレベーターやお風呂がない住宅に住む高齢者を対象にしたもので、政府から派遣されたボランティアが近所の浴場へ付き添いをするサービスのことです。入浴料金も

日本流サービスは

昨年、ある日系企業の活動に後押しされた形で、ようやく一歩前進しました。その日本企業は日本でも30年以上の訪問入浴の実績があり、上海の介護事業者と共同で訪問入浴サービスを開始しました。3名の専門スタッフが道具の準備から入浴完了まで30分以上の時間をかけてサービス提供す